

自分を守る！	▶ 初動体制の構築	社員に対する教育・啓発・訓練を行う	この取組のポイント
001	認知科学の知見を活用した、「想定外」への対応力を養う演習		✓ AETE サイクルに基づいた演習を導入 ✓ 「自ら考え臨機応変に行動する力」を養う
取組主体		従業員数	想定災害
イツ・コミュニケーションズ株式会社		657 名	地震等
			実施地域
			神奈川県

イツ・コミュニケーションズ株式会社は、認知科学の知見等を活用し、演習を通じて「自ら臨機応変に行動する力」を養っている。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

「想定外のことを想定」するイツコム BC ポリシー

- イツ・コミュニケーションズ株式会社は、テレビ、インターネット、電話等の生活インフラサービスを現在 80 万以上の世帯に提供している。顧客の生活を支える企業として、常に安定したサービスを届けることを使命としており、東日本大震災によって放送停止に陥りかけた経験等を踏まえ、「想定外のことを想定」する BC ポリシーを定めた。
- 同社では、前述の BC ポリシーを社員に定着させるために「AETE サイクル」に基づいた演習を導入した。AETE サイクルでは、まず想定外をイメージさせて BC への意識を高め（Awareness）、意識が高まったところで教育（Education）を実施し、やる気を引き出す。そして初めて訓練（Training）に移り、基礎を身に付け、その後どのような状況下でも対応できるよう演習（Exercise）を実施する。
- いかなる脅威にも対応できる「事業継続力」を養うにはそのベースとして「自ら考え臨機応変に行動する力（自考応変）」が必須であると考え、決められたルールに沿って実施する訓練よりも、演習を重視している。シナリオを一切知らされずに行う図上演習である「想定外シミュレーション型演習」は、平成 30 年 3 月までに 610 余名の全社員が受講した。

2 取組の平時における利活用の状況

地域の方々へ防災訓練や防災関連サービスの提供を実施

- 地域の方々へ「安心と快適さ」を届ける企業として、地域の防災力・レジリエンス力への貢献も重要だと同社では考え、地域の産官学民の方を集めて「地域防災 CERT 訓練※」を開催しているほか、自治会主催の防災関連イベントへの参加等も行っている。



地域防災 CERT 訓練の様子

※本格的なシミュレーションを行うことで、災害時の心理を体験し、地域コミュニティが力を合わせ、非常事態を乗り越えることを目的とした訓練。

- また、同社の配信するテレビやラジオを通じて、生活情報とともに防災情報の提供を実施しているほか、地域情報と防災情報について他の利用者と情報共有できるスマートフォン用防災アプリも提供している。これらは有事の際に利用するサービスと、平時も利用できるサービスとを組み合わせることで、日頃から日常生活に密着したサービスとして利用してもらう狙いがある。

3 現状の課題・今後の展開等

- 「自ら考え臨機応変に行動する力（自考応変）」を社員に浸透させていくために、同じ演習を続けていくだけでは効果が薄くなってしまうため、今後も新たな演習内容を考えて続けることとしている。

担当者の声	社員の対応力を強化していきます • AETE サイクルを活用し、「BCP が企業の文化・風土として定着している」というゴールに向かって邁進しています。 • 地震だけでなく、情報セキュリティ等様々な事象を想定した演習を実施し、あらゆる脅威に立ち向かうことができる力が身に付くよう取り組んでいます。
問合せ先	イツ・コミュニケーションズ株式会社 法人番号: 7011001016597 TEL 03-6732-7100 FAX— E-Mail —